



発生動向等サーベイランス情報

RSウイルス感染症にご注意ください！

県内、全国ともに、過去5年間の同時期と比べて多い状況にあります。



主に乳幼児に多く見られる感染症ですが、成人では感染しても軽い風邪の様な症状で済むことが多いため、RSウイルス感染症とは気づかずに高齢者に感染を広げてしまう危険性があります。

慢性呼吸器疾患等の基礎疾患のある高齢者では急性の重症肺炎を起こす原因となることが知られており、高齢者施設等では集団発生が問題となる場合があるため注意が必要です。

★感染経路：接触感染、飛沫感染

★感染対策：手洗い、身の回りの消毒、マスク着用

定点当たり報告数

トップ5 (R7.3.26現在)

1	感染性胃腸炎
2	新型コロナウイルス感染症
3	インフルエンザ
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
5	伝染性紅斑



(RSウイルスとは)

感染対策のポイント

シリーズ10:子どもだけではありません

RSウイルス感染症は、子どもの病気というイメージがありますが、高齢者や心疾患、慢性呼吸器疾患などの基礎疾患がある方にも問題となることがわかっています。ただし多くは軽い風邪症状が主体であるため、わざわざ成人でRSウイルスの検査の実施は通常行いませんので、高齢者施設等でRSウイルス感染症が流行していることを察知するのは難しいです。子どもの間でRSウイルス感染症が流行している時期に、施設内で風邪症状の方が増えている場合には、RSウイルス感染症の可能性も考慮します。

感染症専門家からのアドバイス



RSウイルス感染症に対する特異的な治療薬はありませんので、発症時には対症療法が基本となります。60歳以上の高齢者や、50歳以上で基礎疾患のある方など、RSウイルス感染症による重症化が心配な方には、ワクチンが利用可能ですので、かかりつけ医等に相談してみても良いでしょう。